

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2017年第33週
(8月14日～8月20日)

- * 2017年8月23日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は月報告(2017年7月)の疾患及び感染症豆知識「抗菌薬の適正使用(平成29年3月6日厚労省薬剤耐性に関する小委員会報告)を踏まえて」も掲載しています。

平成29(2017)年8月24日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：www@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2017年33週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		30週	31週	32週	33週	年累計	33週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	63	66	55	55	2,103	312	14,118
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 ^{*1}							
	中東呼吸器症候群 ^{*2}							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
	鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*3}							
三類	コレラ					1		4
	細菌性赤痢	1	2			24	1	94
	腸管出血性大腸菌感染症	19	18	58	71	254	291	1,995
	腸チフス			1		7		24
	パラチフス			1		5		10
四類	E型肝炎		2	1		41	3	213
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎		1		2	52	4	189
	エキノコックス症					1		19
	黄熱							
	オウム病							10
	オムスク出血熱							
	回帰熱					1		3
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症		1			1		1
	サル痘							
	ジカウイルス感染症 ^{*4}							2
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*5}						3	66
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							2
	炭疽							
	チクングニア熱					2		2
つつが虫病		1			3	1	103	
デング熱	2	3	2	2	38	3	128	
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								

*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。2014年7月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*3 2013年より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*4 2016年2月15日より新たに追加指定された。

*5 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		30週	31週	32週	33週	年累計	33週	年累計
四 類	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						9	168
	日本脳炎							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							1
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症					1		3
	マラリア	1		3		14	3	33
	野兔病							
	ライム病					1		14
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽					1		1
	レジオネラ症	4		7	4	88	42	993
レプトスピラ症					3		13	
ロッキー山紅斑熱								
2017/8/23集計								

(全数把握対象疾患のコメント・一類～四類)

〈二類感染症〉

結核 55件 患者および死亡後診断 35件(肺結核 30件、その他の結核 4件、肺結核及びその他の結核 1件)、無症状病原体保有者 18件、疑似症 2件、年齢は10歳未満 5件(うち5歳未満 3件)、10代 1件、20代 3件、30代 4件、40代 3件、50代 7件、60代 10件、70代 10件、80代 9件、90歳以上 3件、推定感染地は国内 48件、アラブ首長国連邦 1件、カンボジア 1件、ベトナム 1件、ミャンマー 1件、中国 1件、国内又は中国 1件、不明 1件であった。

〈三類感染症〉

腸管出血性大腸菌感染症 71件 患者 60件(うちHUS 2件)、無症状病原体保有者 10件、感染症死亡者の死体 1件、血清型・毒素型はO103 VT1 1件、O145 VT型不明 1件、O157 VT1・VT2 8件、O157 VT1 3件、O157 VT2 47件、O157 VT型不明 8件、血清型不明VT1・VT2 1件、血清型不明VT2 2件、年齢は10歳未満 7件(うち5歳未満 2件)、10代 7件、20代 21件、30代 11件、40代 6件、50代 5件、60代 8件、70代 2件、80代 2件、90歳以上 2件、推定感染地は国内 71件、推定感染経路は経口感染 35件、接触感染 1件、経口感染又は接触感染 2件、不明 33件であった。90歳以上のうち1件は第31週に報告のあった養護老人ホームの関係者であった。

〈四類感染症〉

A型肝炎 2件 患者 2件、年齢は40代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は経口感染 2件であった。

デング熱 2件 患者 2件、病型はデング熱 2件、血清型は不明 2件、年齢は10代 1件、30代 1件、推定感染地はベトナム 1件、ミャンマー 1件であった。

レジオネラ症 4件 病型は肺炎型 4件、年齢は50代 1件、60代 2件、80代 1件、推定感染地は国内 4件、推定感染経路は水系感染 1件、不明 3件であった。

※ 第32週該当分として〔三類〕腸管出血性大腸菌感染症 1件の追加報告があった。

※ 第32週該当分として〔四類〕レジオネラ症 1件の追加報告があった。

全数把握対象疾患 報告数（五類） 2017年33週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		30週	31週	32週	33週	年累計	33週	年累計
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	7	1	3	4	134	10	675
	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	1	2	2	1	39	2	181
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5	6	3	5	130	32	985
	急性脳炎 *1	3	1	1		44	7	463
	クリプトスポリジウム症							8
	クロイツフェルト・ヤコブ病				2	12	4	127
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	2		1	51	7	356
	後天性免疫不全症候群	15	7	9	10	300	18	877
	ジアルジア症	1		1	1	18		40
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	2	1	1	38	7	254
	侵襲性髄膜炎菌感染症					2		16
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	5	1	2	291	23	2,232
	水痘(入院例に限る)	1		1	2	35	3	198
	先天性風しん症候群							
	梅毒	42	49	29	37	1,106	61	3,446
	播種性クリプトコックス症					10	1	82
	破傷風		1			3	4	75
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					6	1	55
	風しん				2	15	2	60
麻しん		1	3	3	26	4	176	
薬剤耐性アシネトバクター感染症					1		15	

2017/8/23集計

*1 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

（全数把握対象疾患のコメント・五類）

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 4件 病型は腸管 4件、年齢は30代 2件、40代 1件、50代 1件、推定感染地は国内 2件、インド 1件、インドネシア 1件、推定感染経路は経口感染 2件、両性間性的接触 1件、不明 1件であった。

ウイルス性肝炎 1件 B型、年齢は40代、推定感染地は国内、推定感染経路は異性間性的接触、B型肝炎ワクチン接種歴は不明であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 5件 患者 5件、病原菌はエンテロバクター・アエロゲネス 1件、エンテロバクター・クロアカ 2件、肺炎桿菌 2件、年齢は5歳未満 1件、20代 1件、60代 1件、70代 1件、90歳以上 1件、推定感染地は国内 5件、推定感染経路は以前からの保菌 2件、手術部位感染 1件、医療器具関連感染 1件(尿路カテーテル)、不明 1件、90日以内の海外渡航歴は無し 5件であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病 2件 孤発性-古典型CJD 2件、年齢は70代 2件であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 血清群はG群、年齢は70代、推定感染地は国内、推定感染経路は創傷感染であった。患者は死亡が確認された。

後天性免疫不全症候群 10件 AIDS 3件、無症候キャリア 7件、性別は男性 9件、女性 1件、AIDS患者の年齢は30代 1件、40代 1件、60代 1件、無症候キャリアの年齢は20代 2件、30代 3件、40代 2件、推定感染地は国内 7件、タイ 1件、不明 2件、推定感染経路は性的接触 9件(同性間 7件、異性間 1件、両性間 1件)、国外での手術 1件であった。

ジアルジア症 1件 年齢は40代、推定感染地は国内、推定感染経路は異性間性的接触であった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症 1件 血清型は検査未実施、年齢は5歳未満、推定感染地は国内、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染、ヒブワクチン接種歴は3回接種済みであった。

侵襲性肺炎球菌感染症 2件 血清型はすべて検査未実施、年齢は40代 1件、90歳以上 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は不明 2件、肺炎球菌ワクチン接種歴は無し 1件、不明 1件であった。

水痘(入院例) 2件 検査診断例 2件、年齢は30代 1件、50代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 2件、水痘ワクチン接種歴は1回接種済み 1件、不明 1件であった。

梅毒 37件 患者 28件(早期顕症梅毒Ⅰ期 10件、早期顕症梅毒Ⅱ期 18件)、無症候梅毒 9件、性別は男性 28件、女性 9件、年齢は20代 12件、30代 8件、40代 7件、50代 7件、60代 1件、70代 2件、推定感染地は国内 36件、ミャンマー 1件、推定感染経路は性的接触 37件(同性間 7件、異性間 24件、両性間 1件、性別不明 5件)であった。

風しん 2件 検査診断例 1件、臨床診断例 1件、年齢は5歳未満 1件、50代 1件、推定感染地は国内 1件、国内又はイタリア又はスイス 1件、推定感染経路は不明 2件、風しん含有ワクチン接種歴は不明 2件であった。

麻しん 3件 修飾麻しん 3件、遺伝子型はD8 3件、年齢は20代 2件、30代 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 3件、麻しん含有ワクチン接種歴は不明 3件であった。3件はいずれも第31週に報告のあった患者との接触があった。

※ 第32週該当分として〔五類〕ウイルス性肝炎 1件、梅毒 2件の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2017年33週

上段: 報告数
下段: 定点当たり

定点種別	対象疾患	2017年				報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		30週	31週	32週	33週		
小児科	RSウイルス感染症	405 1.54	583 2.25	482 1.99	454 2.04	223	264
	咽頭結膜熱	295 1.12	244 0.94	163 0.67	127 0.57		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	455 1.73	402 1.55	229 0.95	201 0.90		
	感染性胃腸炎	1,089 4.14	1,020 3.94	779 3.22	632 2.83		
	水痘	75 0.29	64 0.25	59 0.24	50 0.22		
	手足口病	2,853 10.85	3,066 11.84	2,661 11.00	1,804 8.09		
	伝染性紅斑	24 0.09	17 0.07	17 0.07	10 0.04		
	突発性発しん	158 0.60	143 0.55	102 0.42	92 0.41		
	百日咳	2 0.01	1 0.00	3 0.01	1 0.00		
	ヘルパンギーナ	669 2.54	653 2.52	483 2.00	296 1.33		
	流行性耳下腺炎	69 0.26	46 0.18	46 0.19	32 0.14		
	川崎病 *1	3 0.01	4 0.02	4 0.02	2 0.01		
	不明発しん症 *1	42 0.16	42 0.16	15 0.06	23 0.10		
	インフル エンザ	インフルエンザ *2	60 0.14	95 0.23	36 0.09		
					1 0.03		
眼科	急性出血性結膜炎				1 0.03	36	39
	流行性角結膜炎	25 0.64	32 0.82	36 0.97	20 0.56		
基幹	細菌性髄膜炎 *3		2 0.08	1 0.04	2 0.08	25	25
	無菌性髄膜炎	1 0.04	4 0.16				
	マイコプラズマ肺炎	3 0.12	2 0.08		3 0.12		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)						
	感染性胃腸炎(ロタウイルス) *4				2 0.08		
	インフルエンザ入院	2 0.08	2 0.08	4 0.16	1 0.04		

2017/8/23集計

*1 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

*2 鳥インフルエンザを除く。

*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・ 手足口病の報告数は減少してきていますが、一部地域では非常に高いレベルが続いています。
- ・ 咽頭結膜熱は例年並みの発生状況に近づいていますが一部に報告数の高い地域があります。
- ・ RSウイルス感染症の報告数は例年よりも非常に高いレベルで推移しています。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2017年33週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
～5か月	50	1		13		20				4	
6～11か月	87	5	3	64	2	207		27		32	1
1歳	204	25	12	88	5	679	1	46		83	
2歳	79	24	20	61	3	376		10		59	1
3歳	24	18	19	64	13	189	1	5		35	2
4歳	6	21	26	57	5	116	1	3		33	3
5歳		12	22	35	5	60	1	1		13	2
6歳	1	6	23	26	6	44	1			8	5
7歳		6	13	20	1	16	3			3	6
8歳	1	4	16	26	3	21	1			4	7
9歳			9	20	4	13	1			4	
10～14歳		3	23	59	1	15				12	4
15～19歳			2	15	2					1	
20～29歳	2	2	13	84		48			1	5	1
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	454	127	201	632	50	1,804	10	92	1	296	32
先週比	-28	-36	-28	-147	-9	-857	-7	-10	-2	-187	-14

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
～5か月		1								1	
6～11か月	1	3									
1歳	1	6			2						
2歳		5									
3歳		3	1		1						
4歳			2		2						
5歳		1									
6歳		1									
7歳			1								
8歳		1	1								
9歳		1	3								
10～14歳		1	4					1		1	
15～19歳			4		2						
20～29歳			4		2						
30～39歳			2		3						
40～49歳			3		5						
50～59歳			2	1	2	1					1
60～69歳								1			
70～79歳			1		1			1			
80歳以上			1			1					
合計	2	23	29	1	20	2		3		2	1
先週比	-2	8	-7	1	-16	1		3		2	-3

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数【保健所別】 2017年33週

	小児科										
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
千代田	2.00		0.33	0.67		2.33					
中央区	7.00			4.00		25.00				4.00	
みなと	5.00	0.17	2.00	1.67	1.17	8.83		0.83		1.00	
新宿区	4.14	1.43	0.86	5.57	0.14	6.71		0.29		1.14	0.14
文京	0.25	0.25		1.25		4.25		0.50		0.25	
台東	6.00	2.33		3.67		24.67		2.00		2.33	
墨田区	1.80	0.40	0.40	0.20		7.80		0.40		0.20	
江東区	0.83		1.00	4.17		6.50		0.33		0.17	
品川区	1.29	0.43	0.71	2.43	0.43	6.29		0.57		1.43	
目黒区	6.80	0.60	1.40	4.40	0.20	8.20	0.20	0.80	0.20	1.00	0.20
大田区	2.80	1.80	0.90	4.50	0.60	7.40		0.50		3.50	0.30
世田谷	4.18	0.55	0.73	2.18		6.64	0.09	0.55		1.36	0.36
渋谷区	0.50	0.25	0.25	2.00		8.00		1.25		1.50	
中野区	2.50	0.33	0.50	3.33		12.17		0.17		1.83	
杉並	0.36	0.64	0.18	1.82	0.09	3.73		0.27		0.91	
池袋	3.25	0.25				12.50				2.00	
北区	1.14	0.43	0.29	1.43		4.57		0.29		0.43	
荒川区	4.00	0.50	1.50	4.50		7.00		1.50		3.00	
板橋区	0.20		0.30	1.30	0.10	6.70		0.10		0.60	
練馬区	1.80	1.20	2.20	1.80	0.70	7.80		0.80		0.80	0.70
足立	1.43	0.14		3.86	0.14	4.43		0.57		1.14	
葛飾区	0.13		0.38	2.25	0.25	3.50		0.25		1.13	
江戸川	2.09	0.36	1.82	3.00	0.27	6.18	0.64	0.27		2.18	0.27
八王子市	2.64	0.45	1.45	5.73		10.18		0.45		1.64	0.27
町田市	0.38	0.25	1.63	6.13	0.25	9.00	0.13	0.25		2.25	0.38
西多摩	0.33		0.33	1.00	0.33	7.83				0.17	0.17
南多摩	1.56	0.78	1.00	2.67	0.22	10.33		0.33		0.67	0.22
多摩立川	0.86		0.57	2.93	0.07	8.00				1.14	
多摩府中	1.86	0.21	0.71	1.79	0.21	10.43		0.21		2.36	0.07
多摩小平	3.50	2.25	2.33	3.58	0.58	14.50		0.75		1.00	0.25
島しょ						1.00					
東京都	2.04	0.57	0.90	2.83	0.22	8.09	0.04	0.41	0.00	1.33	0.14

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田		0.33									
中央区			0.33								
みなと			0.11								
新宿区			0.08		0.50						
文京					2.00						1.00
台東											
墨田区			0.13			1.00					
江東区		0.17			2.00						
品川区											
目黒区		0.40	0.25								
大田区			0.13								
世田谷		0.36	0.33								
渋谷区											
中野区			0.20		1.00						
杉並			0.06			0.50				0.50	
池袋	0.25									1.00	
北区											
荒川区											
板橋区		0.70	0.06		0.50			1.00			
練馬区					1.00						
足立		0.14									
葛飾区		0.13						1.00			
江戸川			0.28	0.50							
八王子市		0.09			2.50						
町田市		0.13									
西多摩											
南多摩					1.00						
多摩立川											
多摩府中		0.29	0.13		0.33			0.33			
多摩小平	0.08		0.11		2.00						
島しょ											

東京都	0.01	0.10	0.08	0.03	0.56	0.08		0.12		0.08	0.04
-----	------	------	------	------	------	------	--	------	--	------	------

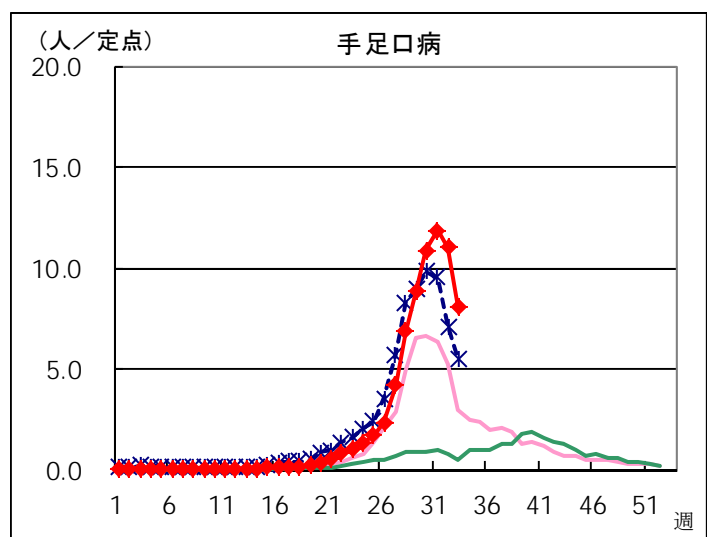
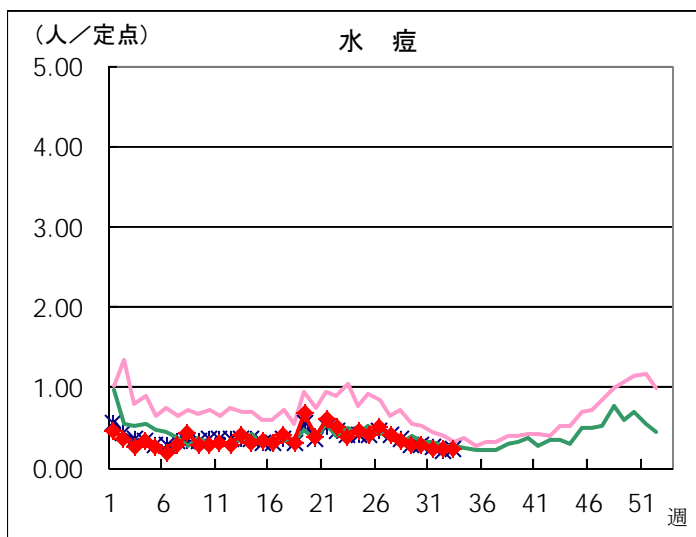
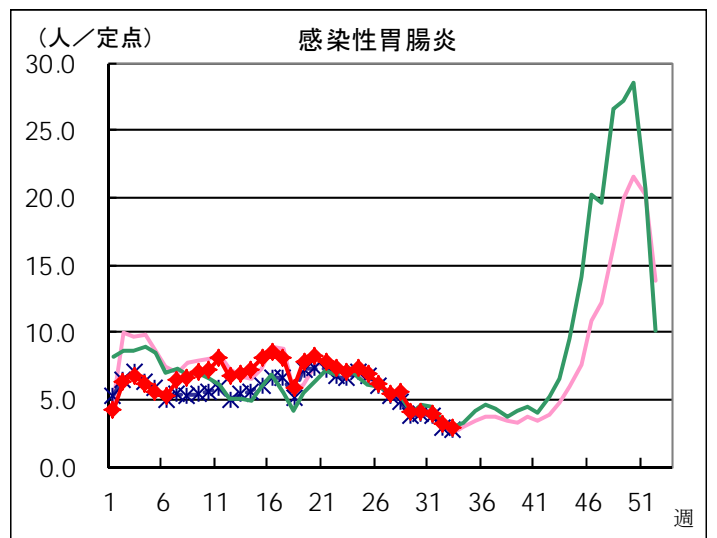
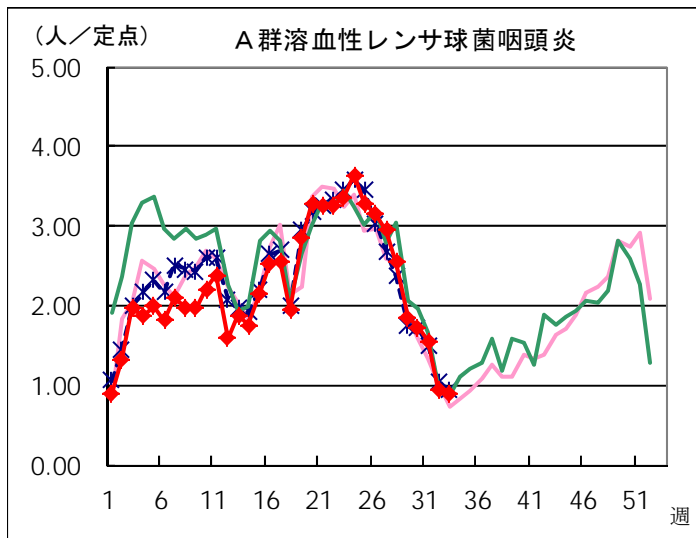
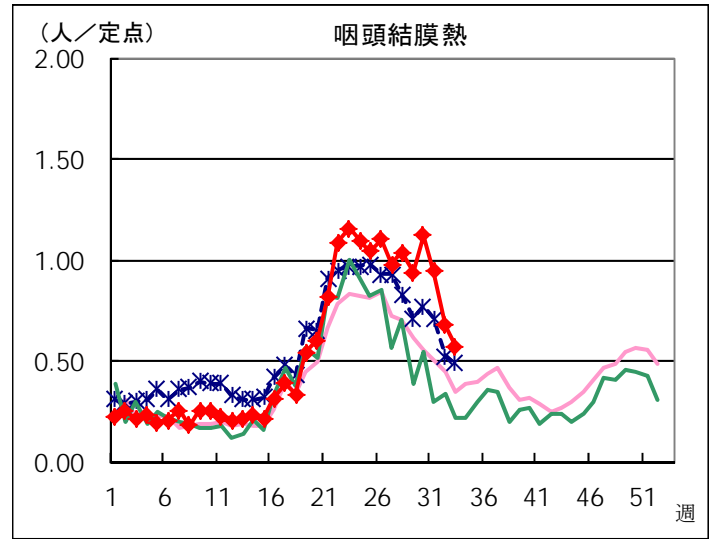
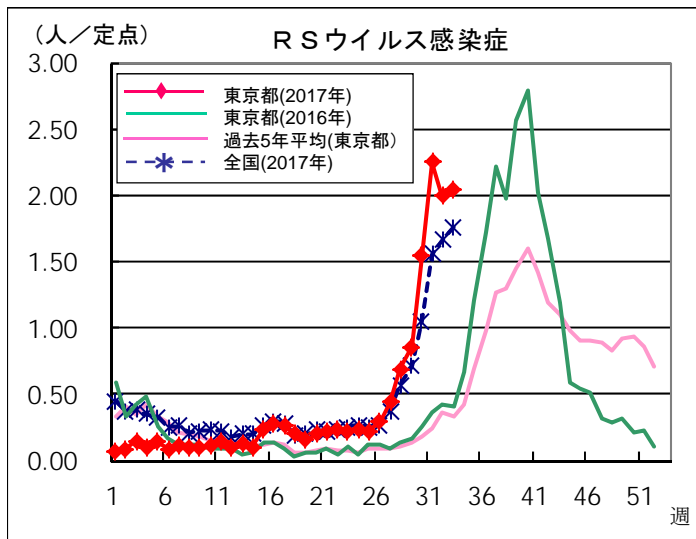
定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2017年33週

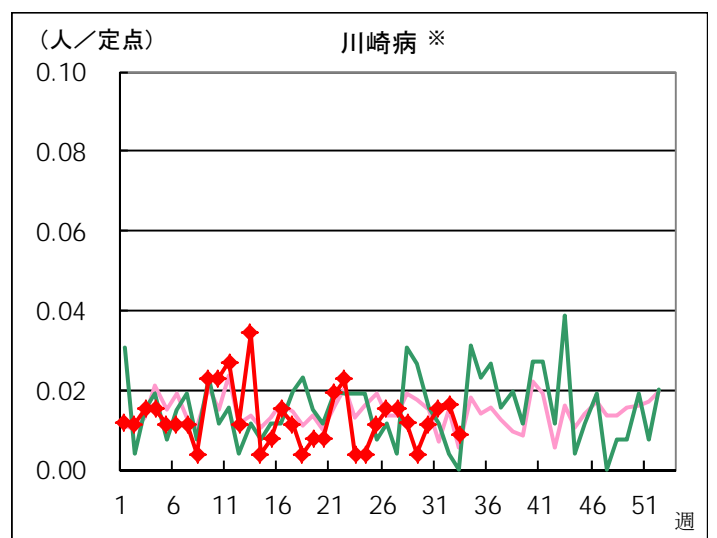
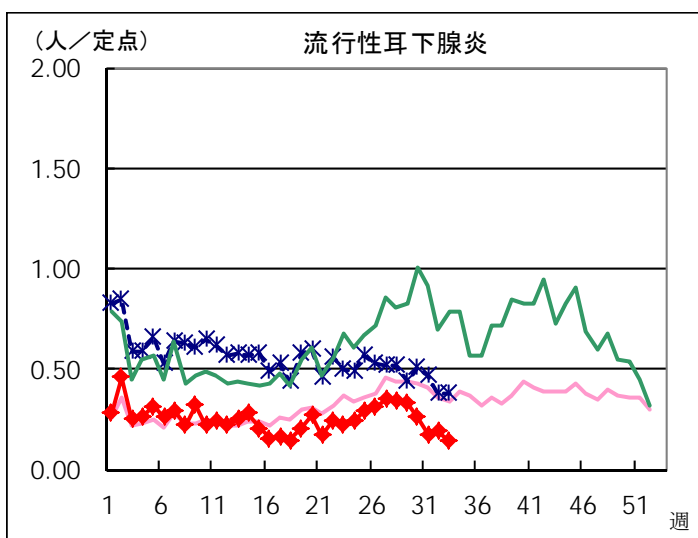
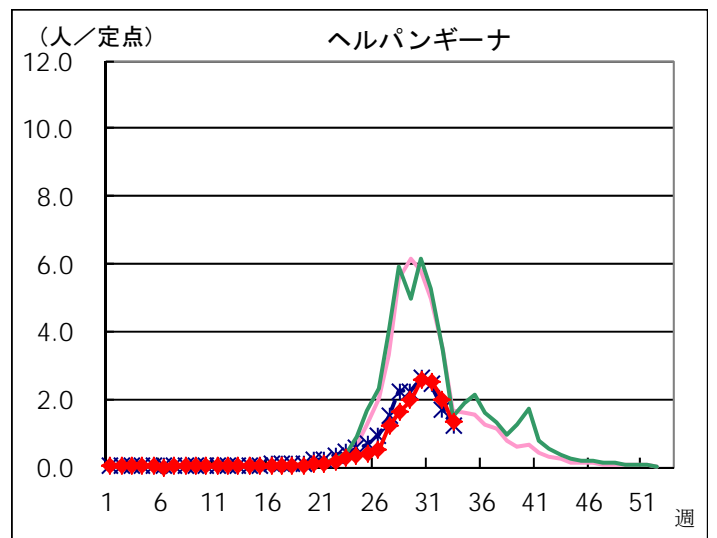
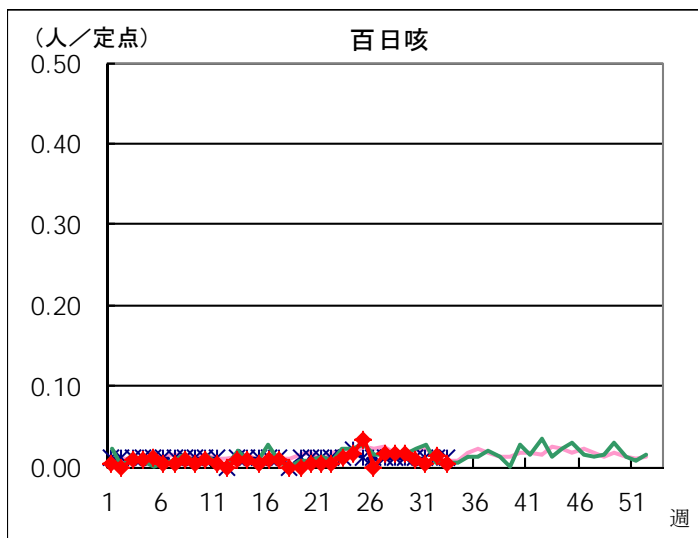
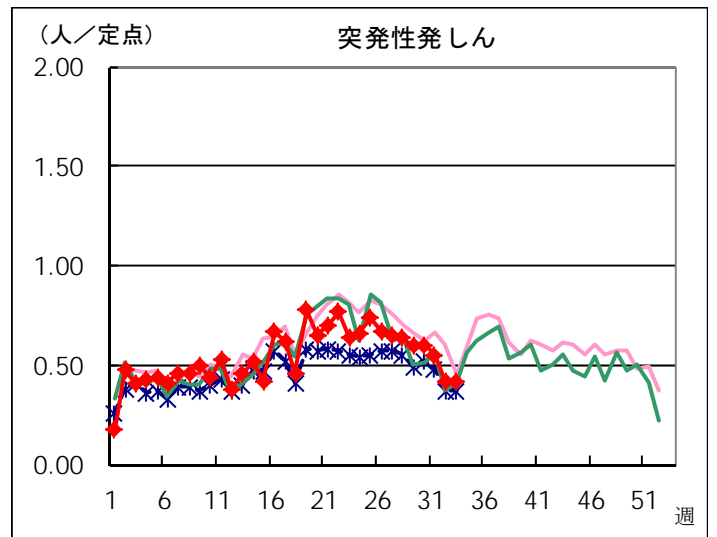
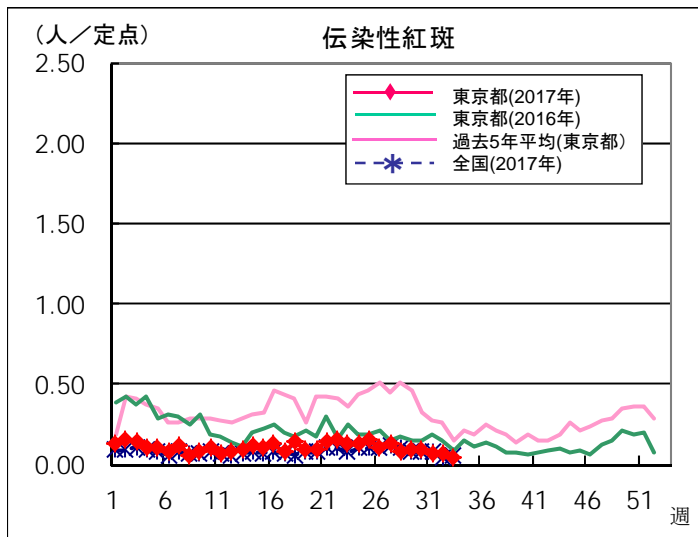
	小児科										
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田	6		1	2		7					
中央区	7			4		25				4	
みなと	30	1	12	10	7	53		5		6	
新宿区	29	10	6	39	1	47		2		8	1
文京	1	1		5		17		2		1	
台東	18	7		11		74		6		7	
墨田区	9	2	2	1		39		2		1	
江東区	5		6	25		39		2		1	
品川区	9	3	5	17	3	44		4		10	
目黒区	34	3	7	22	1	41	1	4	1	5	1
大田区	28	18	9	45	6	74		5		35	3
世田谷	46	6	8	24		73	1	6		15	4
渋谷区	2	1	1	8		32		5		6	
中野区	15	2	3	20		73		1		11	
杉並	4	7	2	20	1	41		3		10	
池袋	13	1				50				8	
北区	8	3	2	10		32		2		3	
荒川区	8	1	3	9		14		3		6	
板橋区	2		3	13	1	67		1		6	
練馬区	18	12	22	18	7	78		8		8	7
足立	10	1		27	1	31		4		8	
葛飾区	1		3	18	2	28		2		9	
江戸川	23	4	20	33	3	68	7	3		24	3
八王子市	29	5	16	63		112		5		18	3
町田市	3	2	13	49	2	72	1	2		18	3
西多摩	2		2	6	2	47				1	1
南多摩	14	7	9	24	2	93		3		6	2
多摩立川	12		8	41	1	112				16	
多摩府中	26	3	10	25	3	146		3		33	1
多摩小平	42	27	28	43	7	174		9		12	3
島しょ						1					
東京都合計	454	127	201	632	50	1,804	10	92	1	296	32

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田		1									
中央区			1								
みなと			1								
新宿区			1		1						
文京					2						1
台東											
墨田区			1			1					
江東区		1			2						
品川区											
目黒区		2	2								
大田区			2								
世田谷		4	7								
渋谷区											
中野区			2		1						
杉並			1			1				1	
池袋	1									1	
北区											
荒川区											
板橋区		7	1		1			1			
練馬区					2						
足立		1									
葛飾区		1						1			
江戸川			5	1							
八王子市		1			5						
町田市		1									
西多摩											
南多摩					1						
多摩立川											
多摩府中		4	3		1			1			
多摩小平	1		2		4						
島しょ											
東京都合計	2	23	29	1	20	2		3		2	1

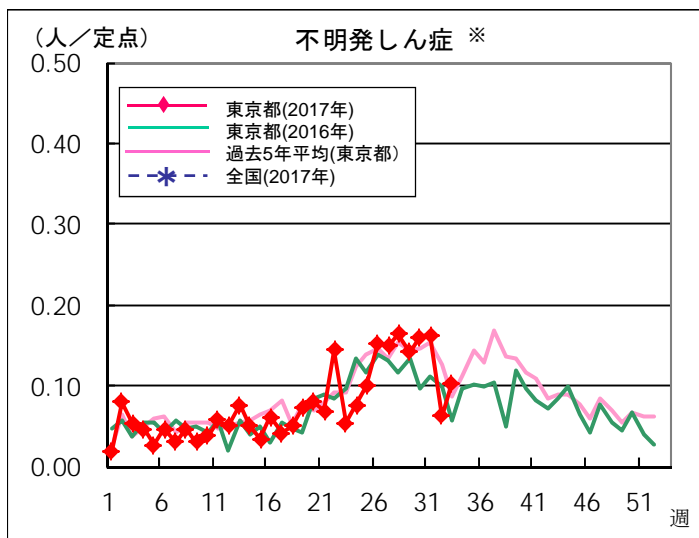
定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数(2017年33週 現在)

◆ 小児科定点



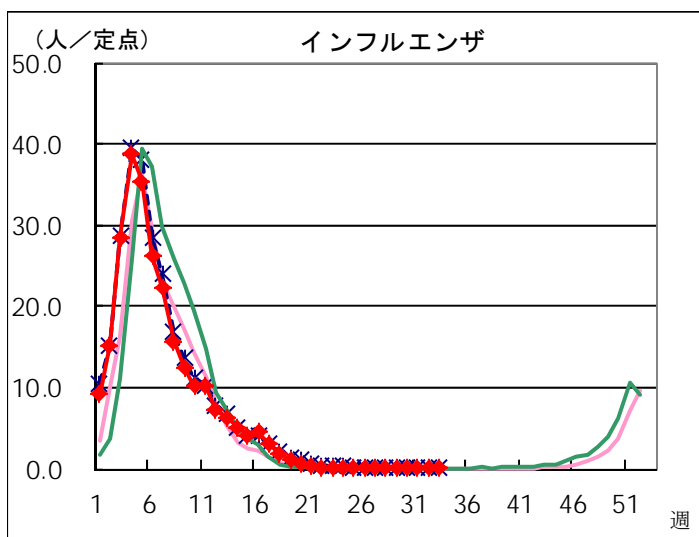


※ 東京都独自対象疾患

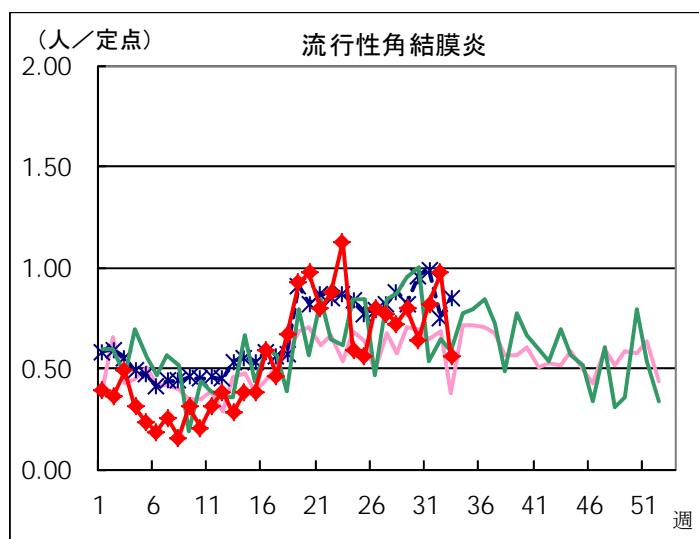
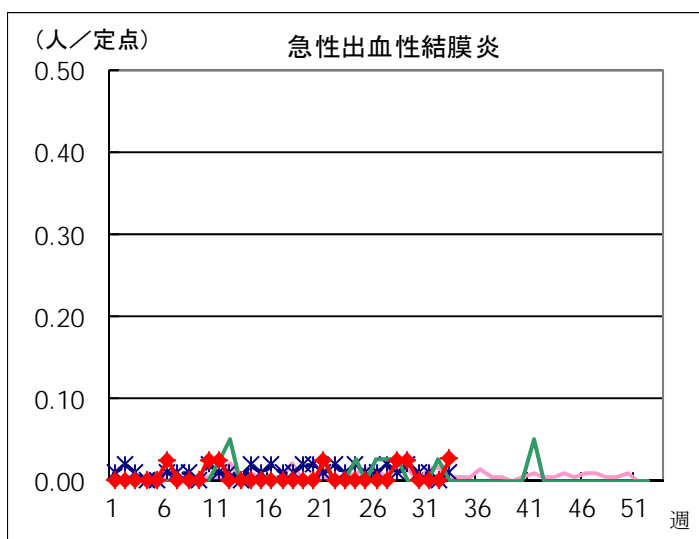


※ 東京都独自対象疾患

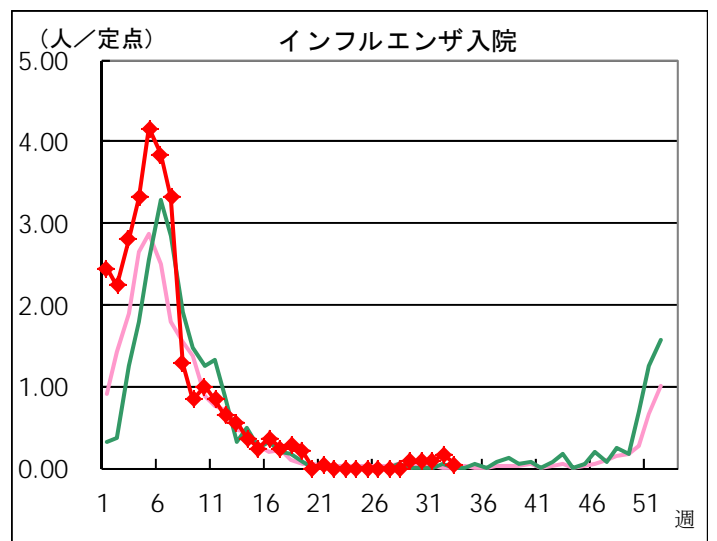
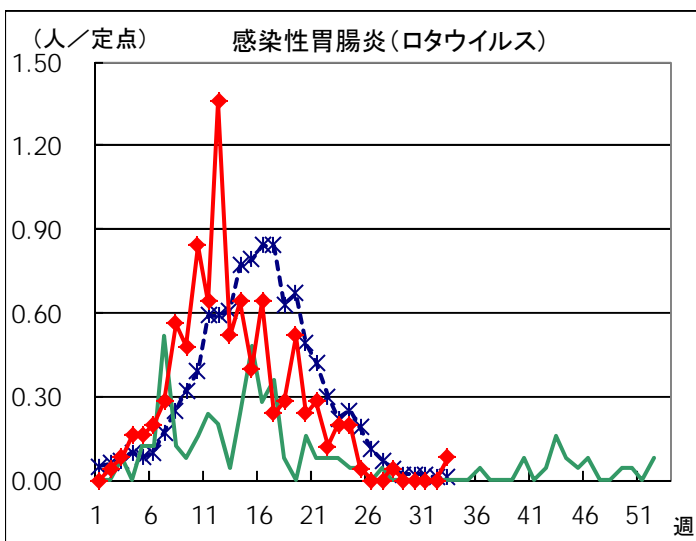
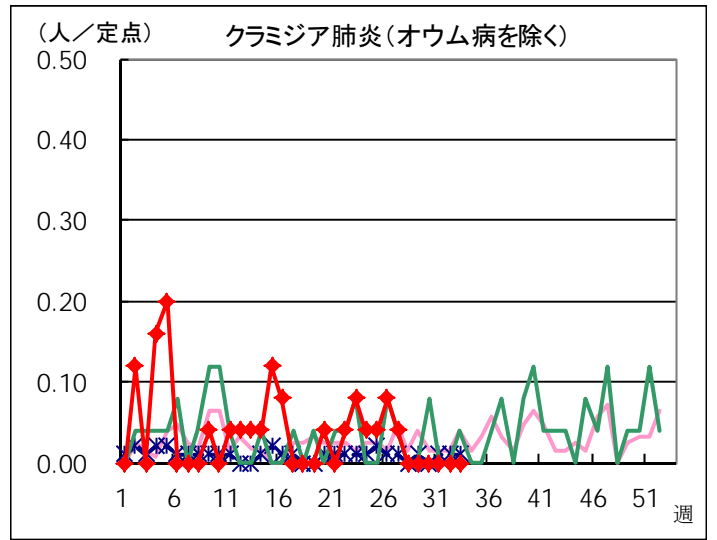
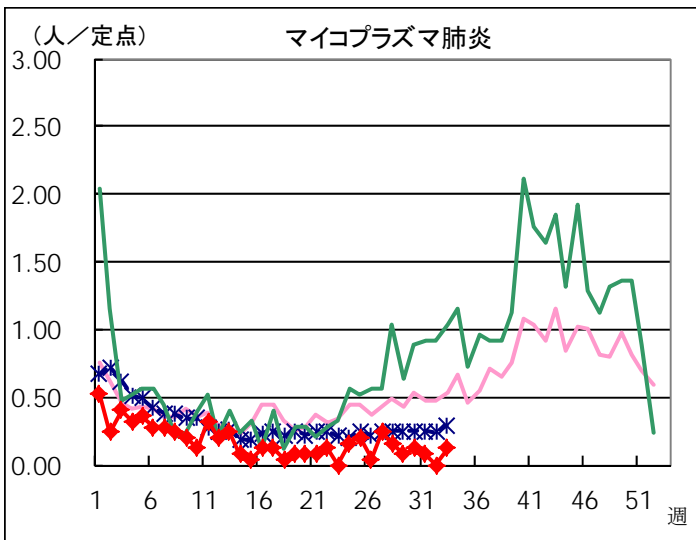
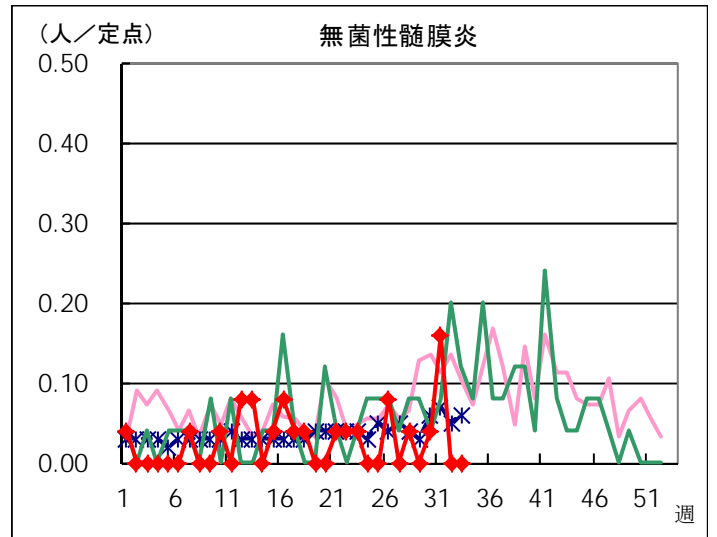
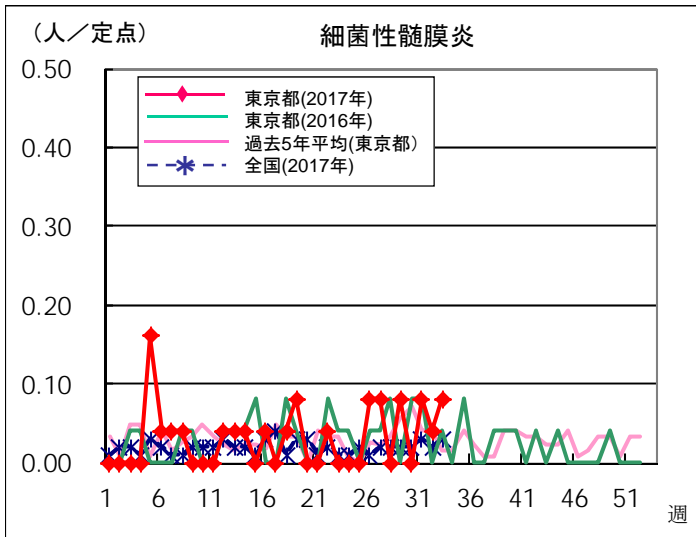
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



定点医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

採取日	臨床診断名	年齢	検査試料	検出病原体
7/24	咽頭結膜熱	10M	咽頭拭い液	アデノウイルス1型 ヒトヘルペスウイルス6型
7/26	手足口病	6	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型
7/27	不明発しん症	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型
7/28	手足口病	6M	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型
7/28	手足口病	2	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型
7/29	水痘	4	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型
7/31	インフルエンザ様疾患	4	咽頭拭い液	ライノウイルス
7/31	感染性胃腸炎	6M	便	A群ロタウイルス
7/31	手足口病	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型
7/31	手足口病	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型 ヒトヘルペスウイルス6型
7/31	手足口病	2	咽頭拭い液	ライノウイルス ヒトヘルペスウイルス6型
7/31	手足口病	3	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型
7/31	突発性発しん	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型
7/31	不明発しん症	8M	咽頭拭い液	ヒトパレコウイルス1型
8/2	感染性胃腸炎	1	便	ノロウイルスG II
8/2	手足口病	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス71型
8/3	RSウイルス感染症	1	咽頭拭い液	RSウイルスA型

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

	AH1pdm09	AH1亜型	AH3亜型	B型
2017年31週	3		1	
2016-2017年 シーズン累計*	10		310	111

* 2016-2017年シーズンの開始は第36週(2016年9月5日～)

病原体検出情報【週別】

検出病原体	2017年							
	24週	25週	26週	27週	28週	29週	30週	31週
アデノウイルス	3	1	3			1	1	1
コクサッキーウイルスA群	3	3	3	6	5	7	10	7
コクサッキーウイルスB群								
エコーウイルス	1			1	2			
エンテロウイルス71	2		2		1	1	1	1
その他のエンテロウイルス					1	1	2	
ライノウイルス	2	1	1	1	4	1	1	2
ヒトメタニューモウイルス								
単純ヘルペスウイルス								
水痘・帯状疱疹ウイルス						1		
ヒトヘルペスウイルス6型・7型	3	5	2	4	4	6	5	5
EBウイルス				1				
サイトメガロウイルス								
ムンプスウイルス	1	4			2		2	
麻疹ウイルス								
麻疹A型(ワクチンタイプ)		1						
風疹ウイルス								
ヒトパルボウイルスB19								
RSウイルス					1	1	2	1
ノロウイルス		1		1				1
ロタウイルス	1							1
サポウイルス								
インフルエンザウイルスAH1亜型								
インフルエンザウイルスAH3亜型	1	1		1	2	1		1
インフルエンザウイルスB型								
インフルエンザウイルスAH1pdm09								3
その他のウイルス			1			1	1	1
A群溶血性レンサ球菌T-1型	2	1					1	
A群溶血性レンサ球菌T-3型								
A群溶血性レンサ球菌T-4型	1	1						
A群溶血性レンサ球菌T-12型	2						1	
A群溶血性レンサ球菌T-25型			1		1			
A群溶血性レンサ球菌T-28型								
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型					1			
A群溶血性レンサ球菌その他のT型		1						
A群溶血性レンサ球菌T型別不能								
百日咳菌								
肺炎マイコプラズマ								
肺炎クラミジア								
髄膜炎菌								
B群レンサ球菌								
肺炎球菌								
インフルエンザ菌								
黄色ブドウ球菌								
大腸菌								
その他の細菌								
その他の病原体								

病原体検出情報【臨床診断名別】

2017年24週～2017年31週

	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発疹	インフルエンザ	インフルエンザ様疾患	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
搬入検体数	6	14	13	12	3	49	3	10	1	9	15	3	33	10	15		1		24		
アデノウイルス		4		4										1	1						
コクサッキーウイルスA群					1	34				6		1	2								
コクサッキーウイルスB群																					
エコーウイルス							1			1			2								
エンテロウイルス71						6		1												1	
その他のエンテロウイルス						2								1						1	
ライノウイルス	1	2			1	2		1					4		1					1	
ヒトメタニューモウイルス																					
単純ヘルペスウイルス																					
水痘・帯状疱疹ウイルス					1																
ヒトヘルペスウイルス6型・7型		3				11		6		1			12							1	
EBウイルス											1										
サイトメガロウイルス																					
ムンプスウイルス											8									1	
麻疹ウイルス																					
麻疹A型(ワクチンタイプ)														1							
風疹ウイルス																					
ヒトパルボウイルスB19																					
RSウイルス	5																				
ノロウイルス				3																	
ロタウイルス				2																	
サボウイルス																					
インフルエンザウイルスAH1亜型																					
インフルエンザウイルスAH3亜型															7						
インフルエンザウイルスB型																					
インフルエンザウイルスAH1pdm09															3						
その他のウイルス				1											3						
A群溶血性レンサ球菌T-1型			4																		
A群溶血性レンサ球菌T-3型																					
A群溶血性レンサ球菌T-4型			2																		
A群溶血性レンサ球菌T-12型			3																		
A群溶血性レンサ球菌T-25型			2																		
A群溶血性レンサ球菌T-28型																					
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型			1																		
A群溶血性レンサ球菌その他のT型			1																		
A群溶血性レンサ球菌T型別不能																					
百日咳菌																					
肺炎マイコプラズマ																					
肺炎クラミジア																					
髄膜炎菌																					
B群レンサ球菌																					
肺炎球菌																					
インフルエンザ菌																					
黄色ブドウ球菌																					
大腸菌																					
その他の細菌																					
その他の病原体																					

月報告 定点把握対象疾患 報告数 2017年7月

定点種別	対象疾患	性別	報告数	定点当たり	合計	定点当たり	報告医療機関数	定点医療機関数
性感染症	性器クラミジア感染症	男	127	2.31	207	3.76	55	55
		女	80	1.45				
	性器ヘルペスウイルス感染症	男	77	1.40	107	1.95		
		女	30	0.55				
	尖圭コンジローマ	男	61	1.11	100	1.82		
		女	39	0.71				
	淋菌感染症	男	85	1.55	110	2.00		
		女	25	0.45				
	膣トリコモナス症	男			7	0.13		
		女	7	0.13				
基幹	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	男	48	1.92	75	3.00	25	25
		女	27	1.08				
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	男	7	0.28	10	0.40		
		女	3	0.12				
	薬剤耐性緑膿菌感染症	男						
		女						
2017/8/22集計								

月報告 定点把握対象疾患(性感染症・基幹) 報告数【年齢階級別】 2017年7月

< 男性 >

	性器 クラミジア 感染症	性器 ヘルペス ウイルス 感染症	尖圭コンジ ローマ	淋菌感染症	膺トリコ モナス症	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌 感染症	ペニシリン耐性 肺炎球菌 感染症	薬剤耐性 緑膿菌感染症
0歳						8	2	
1～4歳						3	3	
5～9歳						1		
10～14歳								
15～19歳	1	1		3		1		
20～24歳	20	3	2	16		2		
25～29歳	26	11	18	18				
30～34歳	14	7	8	9		1		
35～39歳	20	11	14	12				
40～44歳	18	13	10	9				
45～49歳	15	8	3	13		2		
50～54歳	8	11	3	1		2		
55～59歳	1	4	2	1		3		
60～64歳	3	4		2		1		
65～69歳	1	1				3		
70歳～		3	1	1		21	2	
合 計	127	77	61	85		48	7	
先月比	14	-24	6	17	-1	-9	2	

< 女性 >

	性器 クラミジア 感染症	性器 ヘルペス ウイルス 感染症	尖圭コンジ ローマ	淋菌感染症	膺トリコ モナス症	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌 感染症	ペニシリン耐性 肺炎球菌 感染症	薬剤耐性 緑膿菌感染症
0歳						2		
1～4歳						2	2	
5～9歳						2	1	
10～14歳						1		
15～19歳	3	1	3					
20～24歳	31	4	13	4	1	1		
25～29歳	22	7	5	2	2			
30～34歳	7	5	6	3				
35～39歳	6	5	5	5	1	2		
40～44歳	7		4	4		1		
45～49歳	3	2	3	6	2			
50～54歳		3						
55～59歳	1			1		2		
60～64歳		1			1	1		
65～69歳		1				4		
70歳～		1				9		
合 計	80	30	39	25	7	27	3	
先月比	-10	-6	8	6	-8	6		

月報告 定点把握対象疾患(性感染症) 報告数【保健所別】 2017年7月

< 男性 >

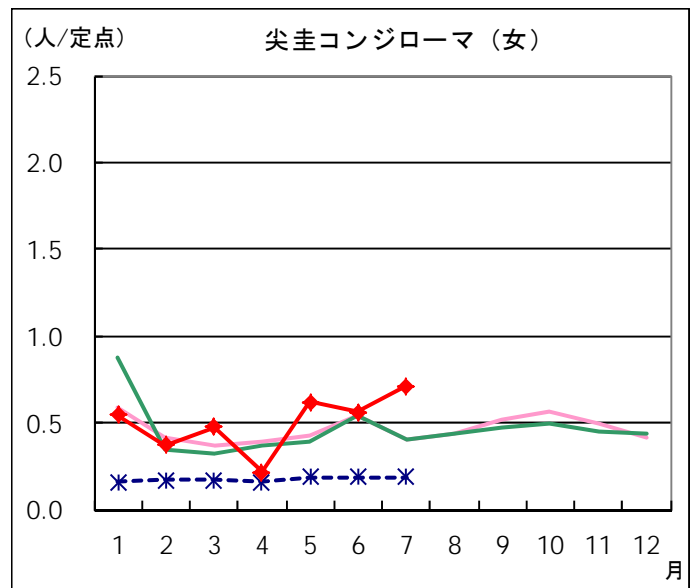
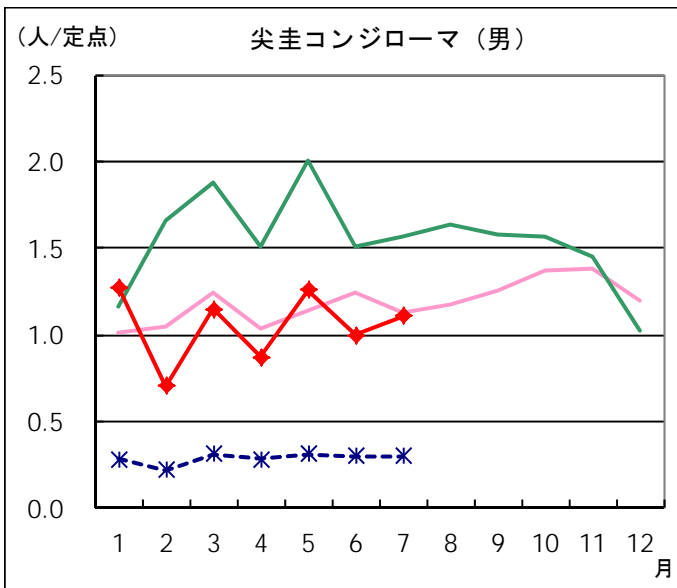
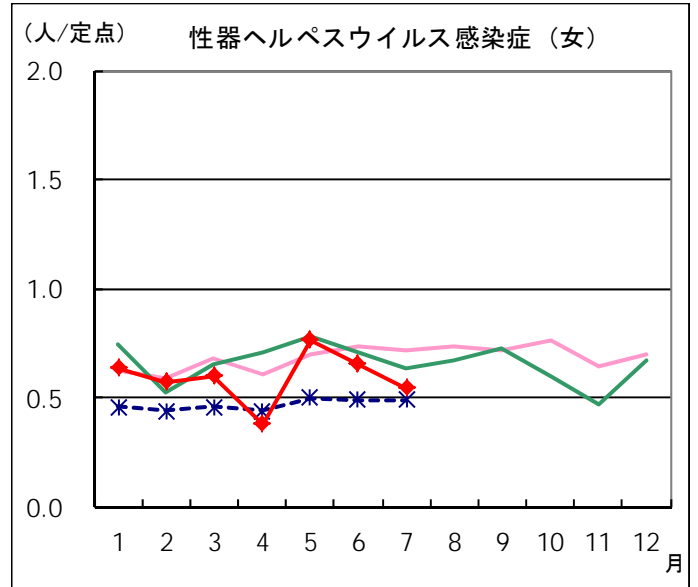
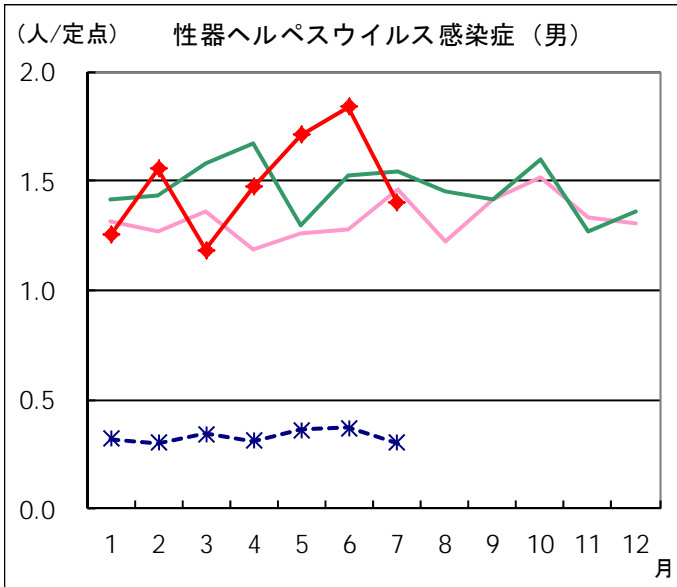
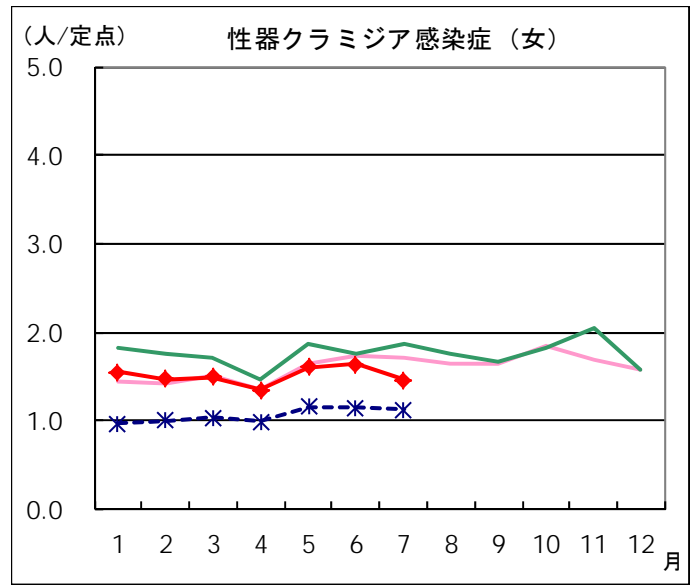
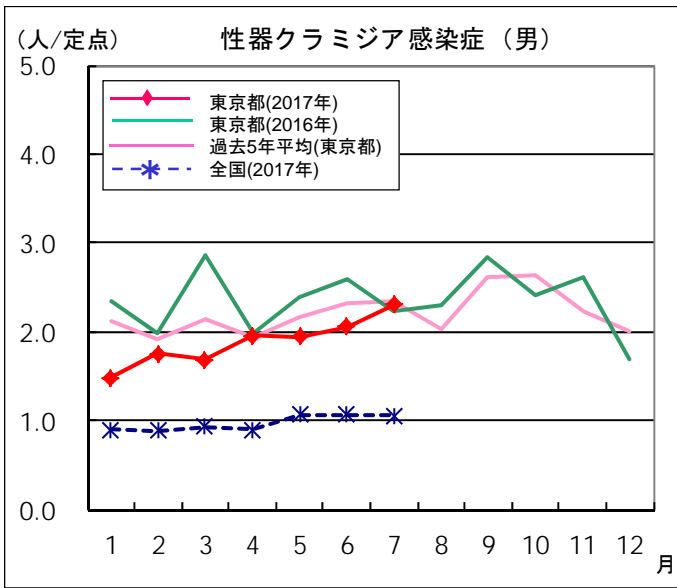
	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	総 計
千代田	2	26	5	4	9		44
中央区	3	13	2	1	6		22
みなと	2	14	37		1		52
新宿区	7	20	10	50	19		99
文京	1	3	1	1			5
台東	2				6		6
墨田区	2	1			1		2
江東区	2	11	7	2	7		27
品川区	1	3	5		2		10
大田区	2	1			1		2
渋谷区	5	9	6	2	13		30
中野区	2	1			3		4
杉並	2	10			1		11
池袋	3	10	4	1	13		28
北区	1						
荒川区	1						
板橋区	2				2		2
足立	2	1					1
江戸川	2	3			1		4
八王子市	4						
町田市	1						
多摩立川	2						
多摩府中	3	1					1
多摩小平	1						
合 計	55	127	77	61	85		350
定点当たり		2.31	1.40	1.11	1.55		6.36

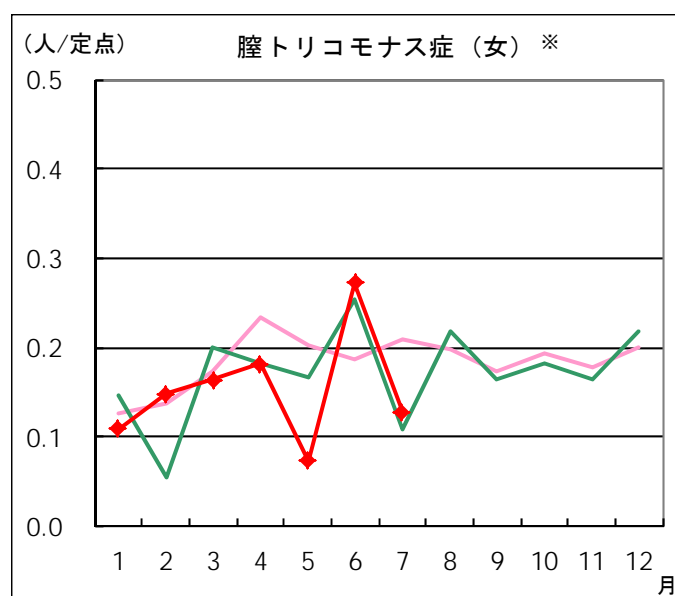
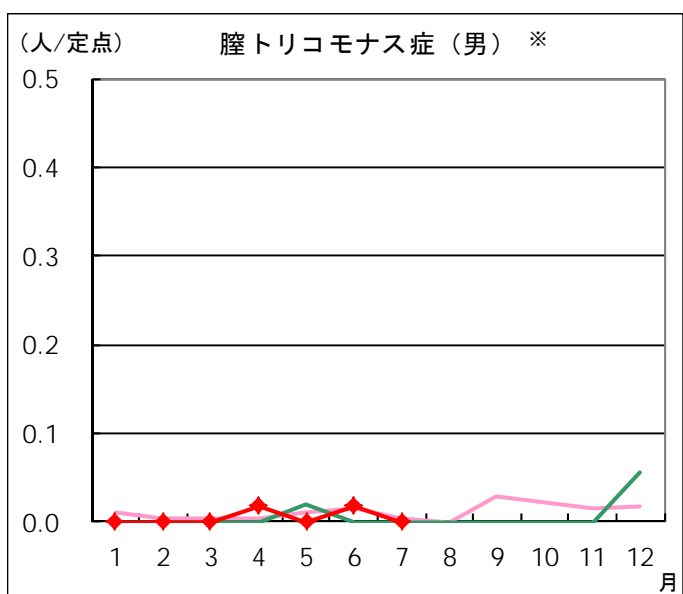
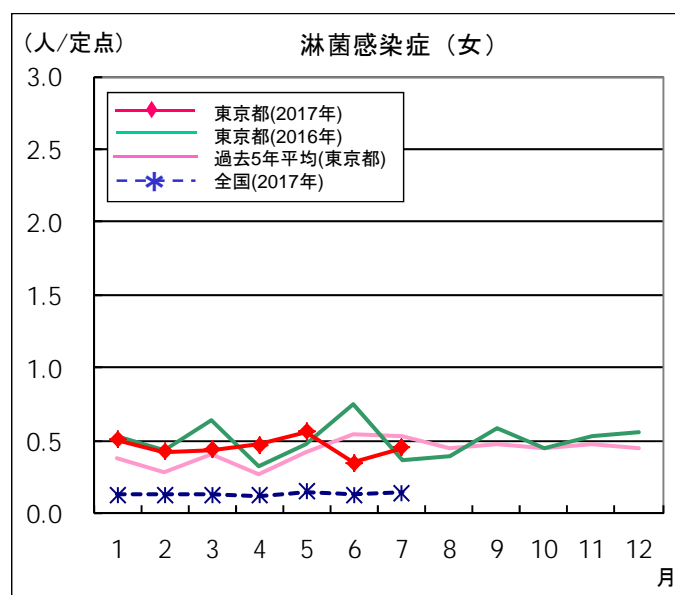
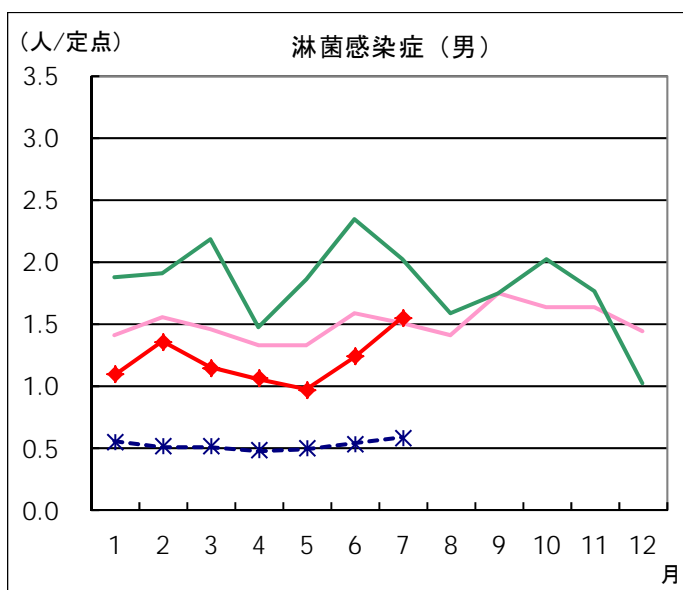
< 女性 >

	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	総 計
千代田	2			1			1
中央区	3						
みなと	2	8	4	2			14
新宿区	7	5	8	20	4	1	38
文京	1						
台東	2	12	1	2	17	1	33
墨田区	2		1	2		1	4
江東区	2	1					1
品川区	1						
大田区	2	8					8
渋谷区	5	9	3	3	1		16
中野区	2						
杉並	2	2	1				3
池袋	3	8	4	4		1	17
北区	1						
荒川区	1						
板橋区	2	5	1		1	2	9
足立	2	2	1		1		4
江戸川	2	3		2	1	1	7
八王子市	4	6					6
町田市	1	2	2	1			5
多摩立川	2	9	3				12
多摩府中	3			2			2
多摩小平	1		1				1
合 計	55	80	30	39	25	7	181
定点当たり		1.45	0.55	0.71	0.45	0.13	3.29

月報告 定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数(2017年7月 現在)

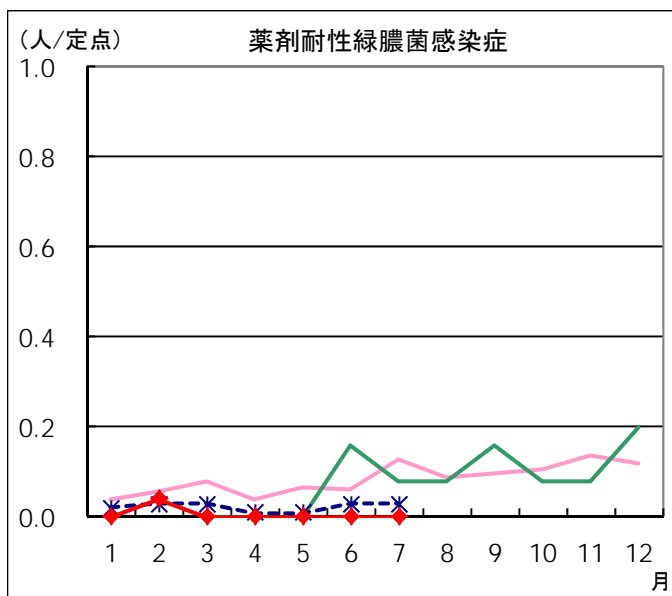
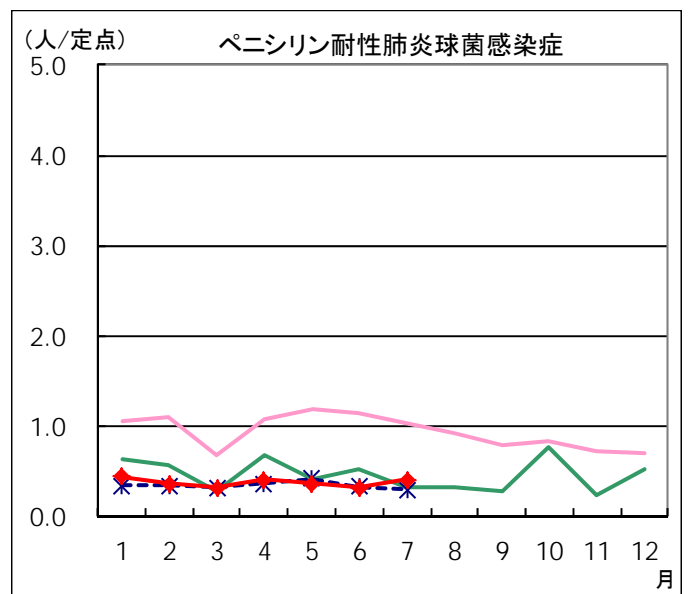
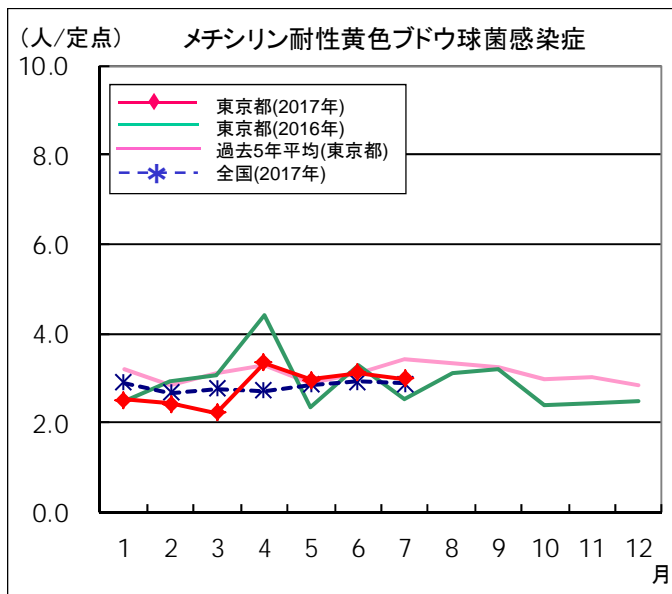
◆ 性感染症定点





※東京都独自対象疾患

◆ 基幹定点



定点医療機関から搬入された検体の検査情報(月報告)

採取日	臨床診断名	年齢	性別	検査試料	検出病原体
5/25	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	男	咽頭拭い液	MRSAコアグラーゼⅢ型
6/7	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	51	男	血液	MRSAコアグラーゼⅢ型
6/8	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5	男	皮膚病巣	MRSAコアグラーゼⅢ型
6/12	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4	男	鼻前庭	MRSAコアグラーゼ型:その他
6/14	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1	男	血液	MRSAコアグラーゼⅡ型
6/18	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	記載なし	皮膚病巣	MRSAコアグラーゼⅡ型
6/26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1	男	尿	MRSAコアグラーゼⅡ型
6/26	性器ヘルペス	49	男	陰部擦過物	単純ヘルペスウイルス2型
6/27	淋菌感染症	42	男	陰部擦過物	淋菌
6/29	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	77	男	血液	MRSAコアグラーゼⅢ型
6/30	性器ヘルペス	50	男	皮膚病巣	単純ヘルペスウイルス2型
7/1	淋菌感染症	24	男	陰部擦過物	淋菌
7/4	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	9	女	気管吸引液	MRSAコアグラーゼⅢ型
7/5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7	女	血液	MRSAコアグラーゼⅢ型
7/6	クラミジア感染症	22	女	陰部擦過物	クラミジア・トラコマチス
7/7	性器ヘルペス	32	男	陰部擦過物	単純ヘルペスウイルス2型
7/8	クラミジア感染症	32	男	陰部擦過物	梅毒
7/10	クラミジア感染症	32	男	陰部擦過物	クラミジア・トラコマチス
7/15	尖圭コンジローマ	24	男	陰部擦過物	ヒトパピローマウイルス6型
7/18	淋菌感染症	39	男	陰部擦過物	クラミジア・トラコマチス 淋菌
7/19	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	男	咽頭拭い液	MRSAコアグラーゼⅢ型
7/21	クラミジア感染症	記載なし	男	尿	淋菌
7/21	淋菌感染症	31	男	陰部擦過物	淋菌
7/23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	52	男	血液	MRSAコアグラーゼⅢ型
7/24	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6	男	皮膚病巣	MRSAコアグラーゼⅦ型

<感染症豆知識>

抗菌薬の適正使用

(平成 29 年 3 月 6 日厚労省薬剤耐性に関する小委員会報告)を踏まえて

薬剤耐性菌の出現と蔓延が世界的な問題になっており、現在 70 万人とされる耐性菌による死亡者数は、2050 年には年間 1,000 万人に上ると推定されている。どんなに優れた抗菌薬を、いくら上手に使っていても、薬を使い続ける限り耐性菌は必ず出現する。また、耐性菌の問題は医療分野に限らない。例えば、家畜用の飼料に添加された抗菌性物質により耐性菌が出現することもある。これが食品などを介してヒトに伝播し感染症を引き起こしたときに、抗菌薬による治療効果が十分に得られない可能性も指摘されている。

世界保健機関(WHO)は、ヒト、動物といった垣根を越えた一体的な取り組み「ワンヘルス・アプローチ」を世界で共有、推進することを提唱し、2015 年 5 月の世界保健総会で「薬剤耐性に関する国際行動計画」を採択した。日本もワンヘルスの考えにのっとり、2016 年 4 月に「薬剤耐性(Antimicrobial Resistance: AMR)対策アクションプラン」を策定し、2016～2020 年までの 5 年間に取り組むべき対策をまとめた。

本アクションプランでは「抗微生物薬の適正使用」など 6 つの柱の「目標」を設定している。さらに、抗菌薬の使用量を 2020 年に 2013 年比の 2/3 に減らすなど、具体的な成果指標を示す意欲的なプランになっている。ただし数値目標は分かりやすいものの、数字だけが独り歩きするのは避けなければならない。数値目標には「正しい診断に基づく適正使用の徹底」というメッセージも込められているからだ。適正使用の鉄則は、「原因菌の正しい診断」「適切な薬の選択」「適切な量と期間の使用」の 3 つである。そのため第一線の臨床現場で原因菌を迅速・正確に特定できる検査法の開発など技術革新が期待される。また、日本のアクションプランでは触れていないが、市中感染対策にはワクチンの普及・啓発も有効である。感染症自体を発症しないようにすれば、抗菌薬の使用量が減り、耐性菌も抑えられるからだ。

(文責 萩原医院 (東京小児科医会) 萩原温久)